

生き生きと学び 共に育ち合う 馬西っ子の育成

～ 楽しく学び合える児童の育成を目指して ～



西区 馬宮西小学校 研修主任 **鈴木 克彦**

1 はじめに

本校は平成22年度、さいたま市教育委員会より、「少人数指導」の研究指定校として委嘱を受け、「生き生きと学び 共に育ち合う馬西っ子の育成」を研究主題に設定し、「楽しく学び合える児童の育成を目指して」をサブテーマとして、研究に取り組んだ。

2 研究の概要

本校では、平成21・22年度に国語科の基礎学力定着の研究委嘱を受け、研究を進めてきた。その中で、児童が相互に楽しく学ぶためには、「伝え合いの場の工夫」が他の教科等においても大切であると考えた。伝え合いや交流のためには、それぞれの考えや意見の根拠となる事項を子どもたちが共有していなければならない。そこで、算数科における伝え合い・交流の基盤を「基礎的・基本的な事項」におき、研究を進めた。

3 研究の内容

<研究の仮説>

基礎・基本の定着を図り、伝え合いの場の工夫をすれば、学ぶ楽しさや達成感を味わえ、意欲的に学び合える児童が育つであろう。

視点Ⅰ 少人数指導充実のための工夫

- 手立て① TTの役割を明確にする。
- 手立て② 課題別、習熟度別など、内容や目

標、児童の実態に合わせた少人数指導を行う。

視点Ⅱ 基礎・基本を定着させるための工夫

- 手立て③ 児童にとって身近である動物園を問題場面にするにより、イメージしやすく、興味を持って取り組めるようにする。
- 手立て④ 三角形や四角形について話し合い、学習最後のまとめなど繰り返し図形の定義について話し合うことで学習課題の定着を図る。
- 手立て⑤ ICT機器を活用し、体験したことを視覚的に再認識させる。また、面としても、三角形・四角形をとらえさせる。

視点Ⅲ 伝え合いの場の工夫

- 手立て⑥ 自分の考えを筋道を立てて表現するために「発表の仕方」の掲示を活用する。

- ・ 話し上手・聞き上手の掲示
- ・ 発表の仕方の掲示
- ・ 司会者カードの活用



- 手立て⑦ グループ内で発表することによ

り、自分の考えを確認し、自信につなげる。



【日常の活動】

朝の会、帰りの会でのスピーチ
質問、感想を発表する場の設定
異学年交流
声のものさしの活用
校内放送による発表
友達のよい面の発見、理解
全校朝会、集会での発表

＜本校の少人数指導＞

- 少人数指導サポート教員の活用
 - (1) 低学年の算数科の授業では、主に少人数指導サポート教員がT1として授業を進める。
 - ・ 担任は、T2として、児童のサポートを行いながら、一人ひとりの学習や認知のスタイルを把握し、他の教科等の指導に生かす。
 - ・ 少人数サポート教員がT1を担当することで、児童の実態や授業の進度に合わせた教材・教具の準備や作成につなげる。
 - (2) 中・高学年では、担任が主にT1を担当し、少人数サポート教員は、T2として児童の支援に当たる。
 - ・ 低学年からの指導や支援の継続性を確保すると共に、児童一人ひとりの学習スタイル等を踏まえた個別的な対応の充実を図る。
- 学校・学級支援員、体育サポーター等の活用
 - (1) 個別の教育的支援を要する児童、個々の実態に応じた学習支援に当

たる。

担任と少人数指導サポートの教員によるT1では、1・2年生の算数の時間には、主に少人数指導サポートの先生がT1を、担任がT2を担当して授業を進めている。担任は、T2として、個々の児童の学習スタイルや興味・関心等を把握することができるので、それを他の授業にも生かすようにしている。このことにより、事前の打ち合わせにあまり時間をかけなくてもよく、児童の実態や授業の進度に合わせて、少人数サポートの先生に教材や教具の準備をしてもらえる。

中・高学年では、逆に、少人数サポート教員がT2を担当している。これは、低学年での指導や支援を踏まえ、既習事項の振り返りや反復、学び直しなど、個に応じたよりきめ細やかな対応を図ろうとするものである。

その他、学校・学級支援員、体育サポーターの方には、学習や集団への適応について、個別的な支援を行ってもらっている。

4 研究の成果と課題

＜成果＞

- 低学年では、担任がT2に入ることで、個に応じた支援を有効に行うことができた。
- 低学年の段階で、少人数の指導を通して、一人ひとりに学習課題を意識させながら、意欲的に操作活動に取り組みさせることができた。

＜課題＞

- 本校のように、少人数の学級にあっては、学級集団を習熟度別など、更に細分化した場合、児童同士が自分の意見を表現し、伝え合う活動が深まりづらく、十分な練り上げを行うことが難しい。一人ひとりが自分の言葉で十分表現できる力が必要とされる。

